平成 28 年度事業報告

社会福祉法人 足羽福祉会

平成 28 年度は、社会福祉法等の一部を改正する法律（平成 28 年 3 月 31 日）の公布による社会福祉法人の公益性・非営利性にふさわしい経営体制のさらなる構築に向け、平成 29 年 4 月に施行される法人制度改革への円滑かつ適切な対応に資するための取組みを実施し「地域に開かれた、地域に信頼される」社会福祉法人として対応してきました。

また平成 29 年度、当法人が創立 50 周年という節目の年を迎えるため「創立 50 周年記念事業検討準備委員会」を立ち上げ、記念すべき創立 50 周年の機会をきっかけに、過去を振り返り、そして未来に向けて、地域や利用者の皆様との絆を深めることを目的に検討を重ね、記念事業・広報ＰＲ事業等について取り組んできました。～感謝を胸に「共に生きる」これからも～をキャッチコピーに、新たな一歩を踏み出す準備を進めてきました。

一方、本年度も福祉人材の確保には大変厳しい状況の中で法人経営を強いられました。全国的に直面している深刻な働き手不足の中、他分野との競合も含め大きな課題となっており、職場環境の一層の充実に向けた取組みの強化が求められています。

しかし平成 26 年度から開始した第Ⅱ期中期事業計画（2014～2016）の最終年として、5 つの柱（サービスの質向上、地域貢献、人材の育成・定着・確保、実施プロセス、財務基盤の安定）に基づき、事業計画の達成と地域社会に信頼される社会福祉法人として利用者様と共に、地域と共に、職員と共に、人として、福祉専門家として「共に生きる人」を目指して取り組みました。なお平成 29 年度からスタートする第Ⅲ期中期事業計画（2017～2019）を策定し、創立 50 周年を契機に次の事業展開に向けて着実に取り組んでいきます。

1. サービスの質向上「満足から感動へ」

（1）人権尊重のサービス（本人中心の保育・支援・介護）

① 各拠点が人権尊重の取組み（こども園；事例検討や意見交換による気づきの共有、障がい福祉グループ；外部委員を加えた虐待防止委員会の開催、健康管理体制の強化、関係機関との連携による相談体制の整備等、介護グループ；居住環境整備の定着、介護力向上委員会の内容を拡充、介護と医療の一体化等）を明文化し、利用者様一人ひとりの思いに応えるためのサービス提供を実践しました。

② 接遇トレーナーや接遇委員会を中心に、笑顔・あいさつ・適切な身だしなみの徹底について、月間の目標を掲げたり、日々の振り返りを行ったりして継続的に取り組みました。ある一定の評価は得られているものの、拠点間・職員間における意識の差が見受けられ、次年度は中堅職員の接遇研修を実施することにより、課題解決を図ります。

（2）サービスの標準化（誰もができる仕組み、経験・失敗を次に生かす仕組み）

① 各拠点が支援マニュアルや職務マニュアル、緊急時対応マニュアル等の整備を

し、サービスの質向上のための標準化を図りました。しかしながら事故や苦情につながるケースがありますので、勉強会や研修等を通じて、その対策に継続的に取り組んでいきます。

② 足羽学園、足羽更生園およびスマイルが、福祉サービス第三者評価を受審しました。さらなる自己チェックを行い、改善点については平成 29 年度の事業計画に反映することができました。

③ 神奈川県相模原市の津久井やまゆり園で起きた事件を受け、各拠点において警察の協力を得ながら、不審者対応訓練の実施や防犯マニュアルの作成・見直しを行いました。

（３）取組みのアウトプット（社会に発信する）

① 第 8 回サービス実践報告会は「福井県自治会館」にて、各現場より高い専門性をもっての取組みを発表しました。新たな形として、鯖江市の社会福祉法人「光道園」による 1 発表も参画・参加いただき、来場者含め、気づきや学びの機会となりました。

② 平成 29 年 1 月 10 日、リニューアルしたホームページを開設しました。採用力アップに向けたスマートフォン対応等、多様なツールを充実させました。

2. 地域貢献「共生社会を目指す足羽福祉会」

（１）地域に出向く

① 各事業所がそれぞれの地区において、祭事をはじめとする清掃奉仕活動、防災避難訓練、区民体育祭等に参加し、地域の方々と交流を深めました。また児童発達や障がい者理解等、分野ごとの特性を活かした講義・講座を小・中学校あるいは一般の方に向け開催し、社会参加と福祉に対する理解促進に取り組みました。

② 高齢者介護分野では、福井大東包括支援センターが担う啓蒙、岡保、東藤島地区での業務の他、酒生地区・和田地区の地域支援訪問活動をはじめ、自治会型デイホームへの参加協力や認知症サポーター養成にかかる出前講座等、高齢者に優しい社会づくりに向け、積極的に実践しました。

③ 第 5 回足羽川ふれあいマラソンは、法人創立 50 周年記念大会として「走って社会貢献」のスローガンを掲げ、県内障がい者スポーツ振興に役立てていただくため、ランナー参加料の一部（2118 組：211,800 円）を「しあわせ福井スポーツ協会」にて活用することになりました。また実走者数は 2,222 名、福井市陸上競技協会主管のもと、ボランティア総数は前回を 100 名上回る 450 名のご協力が得られ、成功裡に終えることができました。

（２）地域を招く

① 2 年目となる美山・羽生地区での啓明児童クラブは、ご家族や地域のニーズに応えるため、他拠点との協働や独自企画の行事を実施し、地域住民等の参加が得られました。またこの地域に根付くことを目指した活動は、足羽東こども園が自主事業として行っている児童クラブ（年間延べ 920 名の利用実績）に波及し、今後

の上文殊地区児童の放課後活動支援を担うべく、平成 29 年度から福井市の委託により「上文殊児童クラブ」として開設する運びとなりました。

② 平成 28 年 4 月 14 日に熊本県で発生した地震で、甚大な被害が出ていることを受け、全拠点に募金箱を設け、職員やご家族等の来園者からもご協力いただき、集まった義援金（156,082 円）を福井県共同募金会へ、善意として届けました。

③ それぞれの事業所において、ボランティア受入れ（計 1,755 人、111 団体）、実習受入れ（計 311 人、16 団体）、見学受入れ（計 284 人、46 団体）等々、平成 28 年度は全体で 2,572 名、187 団体の受入れを積極的に行い、また各拠点が持つ人的・物的資源を還元する取組みを継続的に行ったことにより、福祉への理解者・支援者の輪の広がりが実感できました。＜下図参照＞

		足羽東こども園	就労支援センター	足羽学園	足羽更生園	地域生活支援センター	児童発達支援センター	愛全園	足羽利生苑	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ美山	法人本部啓明ｸﾗﾌﾞ	計
ボランティア	団体（組）	0	6	14	13	3	9	22	11	3	30	111
	人数（個人含）	9	13	32	53	38	56	881	77	146	450	1755
実習受入	団体（組）	1	0	0	0	0	3	4	6	2	0	16
	人数（個人含）	4	20	7	5	0	8	267	0	0	0	311
見学受入	団体（組）	0	2	2	10	7	7	3	1	12	2	46
	人数（個人含）	21	117	7	12	14	39	13	0	11	50	284
研修受入	団体（組）	0	0	0	0	0	0	2	4	7	1	14
	人数（個人含）	0	0	0	0	0	0	7	0	15	200	222
合計	団体（組）	1	8	16	23	10	19	31	22	24	33	**187**
	人数（個人含）	34	150	46	70	52	103	1168	77	172	700	**2,572**

3. 人材の育成・定着・確保「ここで働くのが一番と思える職場に」

（1）職員の育成支援策（やりがいを持って働けるように）

① 人事評価制度については公正な評価を主眼とした見直しのため、評価者によるグループ討議を行い、各拠点における現状や相違点を踏まえながら、周知すべき点や統一見解部分の確認等を行いました。引き続き、職員が納得できる育成システムに改善していきます。

② 各拠点では年間の研修計画に基づき、職員の専門性向上に取り組むと共に、県外他法人等への視察見学を実施、それを職員会議等で報告し情報の共有化を図りました。また職員個々のスキルアップやキャリアアップのための資格取得等にかかる費用援助などは組織的に後押しし、それぞれの成長意欲につながっています。

（2）職員の定着策（安心して働けるように）

① 職員のワークライフバランスに配慮した制度活用において、介護休暇 3 名、介護

休業１名、介護短時間勤務１名、育児休業 24 名、育児短時間勤務 13 名、子の看護休暇 10 名の取得実績となり、法人内託児所「ひまわり」では 25 名の登録・利用があり、職員の定着策は実を結んでいます。有給休暇や連続休暇については、業務改善を含めた検討が必要であり、次年度も引き続き推進していきます。

② 給与規程を改定し、夜勤手当の増額ならびに時差勤務者への業務手当支給により処遇改善を行いました。また職員の悩みや思いに関しては、事業所においてアンケートを実施したり、法人では総合アドバイザーによる個別面談を行ったりと、解決に向けて組織全体で取り組みました。ストレスチェック制度によるメンタルヘルスチェックについては予定通り実施し、実施後の面談希望者に対しても産業医を中心に対応を図ることができました。

③ 福井県が推奨する女性活躍推進企業プラスに認定され、その中で特に優れた成果をあげた女性を表彰する「グッドジョブ表彰」に、足羽更生園の職員１名が受賞しました。今後の取組みについては、名称「L☆会（えるぼしかい）」として、女性活躍にかかる情報発信や談話会を計画的に実施していきます。

（３）職員の確保策（良い人材を集めるために）

① 厳しい社会情勢の中、総合福祉法人として専門性を重視した採用を行いました。法人全体の経営企画を担える職員の採用枠は未だ検討中ですが、中途採用に関しては適応能力を見極めた上で、着実に正規職員採用につなげています。引き続き、潜在的福祉人材を掘り起こしていくため、説明会等の機会を逃さず積極的に取り組んでいきます。

② 平成 28 年度も当法人の障害者法定雇用率は、平成 27 年度を上回り、達成することができました。

4. 実施プロセス「一丸となっての事業展開」

（１）法人のガバナンス体制を強化する

① 今般の社会福祉法改正に伴う理事・評議員の役割、理事会・評議員会の機能等を新たな定款等で位置づけ、明確にして平成 29 年 4 月 1 日から適切に執行できるよう体制の構築に取り組みました。

② 法人の情報公開については、全国社会福祉法人経営者協議会のホームページ活用を含め、リニューアルした自ホームページの中で情報公開を進めました。しかし開示請求のルールづくりには着手できず、次年度への課題となりました。

③ 平成 29 年度の創立 50 周年記念事業に向け、各拠点から選出された検討準備委員会のメンバーを中心に協議を重ね、ボールペン等の先行 PR グッズを皮切りに、記念式典の概要や記念誌のページ構成等、徐々に形づくりを行ってきました。なお創立記念式典は平成 29 年 10 月 1 日（日）、福井県生活学習館（ユーアイふくい）にて開催、記念誌発行については平成 30 年 3 月 31 日を予定としています。

（２）制度変革・施設の多機能化や老朽化に計画的に対応

① **足羽東こども園**； 移行して 2 年目となる幼保連携型認定こども園として、1 号

定員 6 名および 2, 3 号定員 130 名に変更し、ニーズに合わせた教育・保育が提供できるようにしました。また幼稚園型一時保育も開始し、1 号認定児家庭に対応した保育時間の確保も行いました。

② **あすわ就労支援センター**； 平成 29 年度からの体制を、それぞれの特性が活かせるよう就労と生活介護の 2 分野 4 拠点に分ける準備を行いました。またスマイルにおける第二の生活介護事業所を探した結果、福井市林町の物件を新規活動場所として決定しました。

③ **足羽学園・足羽更生園**； 平成 29 年度実施予定の園舎改築工事に向け、設計士との打ち合せ、県障害福祉課との協議を経て、小規模グループケアへの基本計画案ならびに概算予算案を策定し、その準備に取り掛かることができました。なお足羽更生園改築工事については、平成 30 年度の実施計画となります。

④ **あすわ地域生活支援センター**； 第 4 期障がい者計画が示す「地域生活支援拠点」のあり方については、自拠点の第Ⅲ期中期事業計画の中で、短期入所受入れの拡大等、目指すべき方向性を定めました。

⑤ **愛全園・足羽利生苑**； 介護保険事業における要支援対象の通所介護が、平成 29 年度から福井市日常生活総合事業として開始されることを受け、両拠点において通所型 A 型サービスの指定を受け、事業開始の準備を行いました。

⑥ **公益事業**； 平成 28 年 4 月より啓蒙・東藤島・岡保地区の地域包括ケアを担うべく「福井大東包括支援センター」を立ち上げ、高齢者宅への個別訪問や地域巡回による実態把握を中心に事業を開始しました。

福井市の公募に申請し、平成 29 年 4 月よりの「福井市障がい者基幹相談支援センター」受託が決定しました。これまで停滞・形骸化していた自立支援協議会等の活性化や福井市全体の相談体制充実強化に向け、ホテルフジタ福井の 2 階にセンターを構え、虐待防止センター事業や地域生活支援拠点事業も展開していくための準備を行いました。

（3）第Ⅲ期（2017～2019）中期事業計画の策定

平成 26 年度からスタートした第Ⅱ期中期事業計画の進捗を検証し、SWOT 分析等により課題認識を共有し、全職員参加のもと法人理念の実現に向け、取り組むべき目標を明確にした上で、平成 29 年度よりの第Ⅲ期中期事業計画（3 ヶ年計画）の作成に一丸となって取り組みました。

5. 財務基盤の安定「スケールメリットを活かした財務管理」

（1）財務管理を適切に行う

① 各拠点の月次決算、法人全体の月次報告を定期的に行い、各会計の責任者に対しタイムリーな情報提供をしながら、適正な収入・支出の見極めを実践しました。

② 平成 28 年度中の外部監査機関による監査は、依頼事務所が閉鎖したこともあり実施できませんでしたが、法人内部の監査を充実させ自己チェックに力を入れました。財務諸表や財産目録等については、当ホームページなどで常時公開してお

り、経営の透明性は示しています。

③ 管理職に対する会計の勉強会は開催できませんでしたが、法人本部と各拠点会計担当者による事務員勉強会で、各業務の相互理解を図りながら、業務の効率化を促進することができました。

④ 愛全園、あすわ児童発達支援センターの借入金返済については、予定通り執行できています。また第Ⅲ期中期事業計画の策定、中長期的な資金状況を確認の上、各拠点と連携しながら目的性のある積立資金計画を立てることができました。

⑤ 平成 29 年度の法人創立 50 周年記念事業の実施に向け、当年度当初予算において適切に予算化を行いました。

6. 職員配置実績

職員数	平均年齢	平均勤続年数
507	42.1	7.1

(平成 29 年 4 月 1 日現在)